

科目名	生涯学習概論		
担当教員名	橋本 克己		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-司書課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

1 科目の性格

本科目は図書館法に定める、司書免許取得に必要な科目の、甲群(必修)の科目に対応する。

2 科目の概要

本科目は、生涯学習や社会教育の生まれた背景を探りながら、情報化社会・高齢化社会の中で、この二者が果たす役割について理解し、併せて、これからの図書館に求められる新しい役割を考察することを目的とする。

3 学修目標

本科目の学修目標は以下の3点である。「生涯学習」の概念について正しく理解することができる。我が国の生涯学習政策について認識を深める。これからの図書館が担って行くべき課題を捉えることができる。

内容

- 1 社会教育の体系と、生涯学習理論の生まれた背景
- 2 生涯学習の意義・役割とその必要性
- 3 生涯学習と家庭教育の関係
- 4 生涯学習と学校教育の関係
- 5 生涯学習と地域の教育
- 6 教育学における生涯学習の概念と意義
- 7 生涯学習をめぐる法制度の整備状況
- 8 社会教育の特質と意義
- 9 学習の機関と施設
- 10 教育行政の役割
- 11 生涯学習の指導体制
- 12 生涯学習とボランティア
- 13 放送メディアやネット利用による生涯学習の可能性
- 14 生涯学習についての今後の社会的課題
- 15 まとめ

評価

毎回の授業冒頭に行う小テスト50：筆記試験50の比率で評価(100点満点)し、合計60点以上を単位認定する。合格点に満たなかった場合は、「再試験」を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【テキスト】 テキストは使用せず、毎回の授業でプリントを配布する。

【参考図書】 参考図書は、授業中に随時紹介する。

科目名	図書館概論		
担当教員名	石川 敬史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-司書課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

図書館は長い歴史の中で人間の知的・創造的活動と深いかわりを持ち続けてきた。本科目は司書資格取得のための課程において入門的な役割を果たし、図書館の幅広い基礎知識を確実にするための科目として位置づけられる。よって、今後履修する全ての図書館関連科目において基盤となる科目である。

科目の概要

現代社会の中で図書館は、どのような意義があり、どのような役割や機能を有するのか。また、その活動を支える図書館司書には、どのような可能性があるのか。本科目では、図書館の役割や機能をはじめ、図書館司書の仕事等について考え、「図書館を考える行なう」を目標に受講生とともに図書館をデザインする。

学修目標

教科書とともに、授業時の説明を理解するように心がけること。さらに、受講者同士の議論やミニワークショップを通して、他の受講生の意見や考えを踏まえ、自らの意見や考えをまとめること。

- ・図書館の基本的機能と役割、館種等、図書館という仕組み(システム)を理解する。
- ・図書館が置かれている社会的背景(制度、機能、メディア、情報化)を理解する。
- ・図書館司書の具体的な仕事内容とその役割を理解する。
- ・図書館の未来について自分なりの考えをまとめることができる。

内容

1	オリエンテーション：本科目の進め方
2	図書館の理念・定義：図書館とは何か
3	図書館の種類・相互協力
4	図書館の機能・サービス
5	図書館の自由
6	図書館司書の仕事(1)
7	図書館司書の仕事(2)
8	情報リテラシー教育・図書館利用教育：図書館をどのように伝えるか
9	学校図書館の可能性
10	大学図書館の役割
11	図書館法規・行政・政策(公共図書館)
12	地域社会と図書館
13	戦後日本の公共図書館の歴史
14	図書館の未来
15	まとめ

評価

授業中の課題作成（20％），授業への参画・発表の姿勢（30％），試験（50％）とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

塩見昇『図書館概論』新訂版，日本図書館協会，2008（JLA図書館情報学テキストシリーズ ， 1 ）

【参考図書】

- ・日本図書館協会図書館ハンドブック編集委員会『図書館ハンドブック』第6版補訂版，日本図書館協会，2010
- ・日本図書館協会『市民の図書館』増補版，日本図書館協会，1976
- ・日本図書館協会『中小都市における公共図書館の運営』日本図書館協会，1973
- ・日本図書館協会図書館利用教育委員会『図書館利用教育ガイドライン』日本図書館協会，2001
- ・竹内慈『図書館のめざすもの』日本図書館協会，1997

科目名	図書館経営論		
担当教員名	西来路 秀彦		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-司書課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

建物に例えるなら、「生涯学習論」は、諸学にも人生にも土台であると言える。その土台上に「図書館経営論」は必須科目として「図書館概論」「図書館サービス論」「図書館資料論」などと共に、柱となり、壁や屋根となって、総合的な図書館像を結ばせる。これを活動する組織体として理解するには、学生諸君の積極的学びが必要である。選択科目は各人の関心によるので、多様なほど良い。

科目の概要。

現代の公共サービスは、財政縮減と行革の大波の中にある。非営利的組織である図書館も、利用者の多様な要求を満たし、またその発展を支える社会システムであり続ける必要がある。そのために図書館の持つ諸資源をより効果的に運用し、その成果をテコに条件そのものをさらに改善することが必要だ。このため、これまでなおざりにされがちな「経営」の視点から図書館活動を考え基礎的知識を得る。

学修目標

- ・社会の変化・発展に、対応できたかできなかったかの分岐点となる事例を跡付け、評価していく。
- ・教科書を事前に読み、配布のプリントでポイントと流れを抑える。
- ・提示される個別テーマの理解が、以降の授業の理解の基礎となる連続性をもつ場合が多く、連続して欠席するとレポート等に十分対応できなくなる心配がある。

内容

1	ガイダンス
2	図書館経営の意味
3	図書館サービスの歩みと最近の展開
4	根拠法と関係法規
5	予算・財源・体制
6	図書館の職員と組織
7	図書館協力(1)歴史と組織等
8	図書館協力(2)ネットワーク
9	図書館協力(3)図書館経営の諸相
10	経営管理と図書館振興
11	建築と施設(1)計画・配置
12	建築と施設(2)設備と空間
13	サービス計画と評価
14	街づくりと図書館
15	総括と展望

評価

- ・複数回のレポート(20%)。出席時の授業寄与/発表・課題等(30%)。テスト(50%)
- ・合格点未達は再試験あり。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

(教科書)『改定 図書館経営論』高山正也編集 樹村房 平成21年

科目名	図書館サービス論		
担当教員名	山口 洋		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-司書課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

図書館における利用者サービスについて学習します。

今日の図書館では、利用者の情報要求に応じてこそ図書館であるという図書館思想のもと、様々な利用者を対象としたサービスが展開されています。本授業では図書館サービスの実際を概観しながら、図書館とは何か？利用者とは何か？そして司書には何が求められるのか？を考えます。

図書館サービスを中心に司書として必要な知識を習得するとともに、自らが司書として、また利用者として図書館について積極的に関わるにはどうしたらよいかを考えられることを目標とします。

内容

1	ガイダンス：図書館とは何か？
2	公立図書館の歴史
3	図書館サービスの意義：サービスの役割
4	図書館サービスとマネジメント：図書館サービスを実現するために
5	図書館運営の形態と図書館サービス：直営か民営か？
6	来館者サービス：館内におけるサービス
7	利用空間の整備：フロア構成から表示まで
8	貸出サービス：貸出の意義と実際
9	資料提供：リクエスト、図書館相互貸借、広域利用、団体貸出
10	情報提供：レファレンスサービス、地域情報拠点
11	利用者対象に応じたサービス提供：児童・障害者・高齢者サービス
12	多様な利用者サービス：集会・文化活動、学校支援
13	利用者との関わり：コミュニケーション、利用者モラル、利用者案内
14	図書館サービスと知的自由：事例研究
15	まとめ

評価

小レポート30%、筆記試験70%として合計で60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書：小田光宏編著『図書館サービス論』(JLA図書館情報学テキストシリーズ ;3)日本図書館協会

参考書：今まど子編著『図書館学基礎資料』第10版 樹村房 2011刊(定価1000円。出来るだけ購入することをお勧めします。)

参考書(司書を目指す方は必読書です)

前川恒雄、石井敦共著『新版 図書館の発見』(NHKブックス)日本放送協会 2006刊 定価920円

参考書（授業で触れる予定の参考書）

『市民の図書館』日本図書館協会

『公立図書館の任務と目標 解説』改訂版 日本図書館協会

『「図書館の自由に関する宣言1979年改訂」解説』第2版 日本図書館協会

前川恒雄著『移動図書館ひまわり号』筑摩書房（絶版について図書館にて捜してください。）

科目名	情報サービス概説		
担当教員名	三澤 勝己		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-司書課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

図書館における情報サービスについて、レファレンスサービスを中心に置きながら説明する。他の司書課程科目とも密接に関連している科目だが、特にレファレンスサービスや情報検索などの演習科目とは関連性が強い。授業については、その内容を授業時に理解することに努めると共に、復習を励行することを望む。

内容

1	情報サービスの定義
2	情報サービスの種類
3	レフェラルサービスとカレントアウェアネスサービス
4	レファレンスサービスの内容
5	レファレンスサービスのプロセス
6	レファレンスコレクションの種類
7	冊子体情報源と電子情報
8	一次資料と二次資料
9	事実解説型の情報源
10	案内指示型の情報源
11	電子情報サービスの種類
12	レファレンスサービスの質問事例
13	レファレンスサービスの評価
14	情報サービスの管理
15	まとめ

評価

レポート(10%)と筆記試験(80%)と通常の授業態度(10%)により評価を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】使用しない。プリントを配布する。

【参考図書】教室で紹介する。

科目名	レファレンスサービス演習		
担当教員名	紺野 順子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-司書課程		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格と概要

レファレンスサービスは、情報を求めている人々に直接行う個人的(人的)援助: personal assistanceと、できるだけ情報を利用しやすくすることを目的とする利用援助: instruction for library useに大別できる。レファレンスサービス演習は、講義科目「情報サービス概説」の学習をふまえ、その内容を具体的に実践的に展開し、レファレンスサービスの実務的能力の修得をめざす。

学修目標

- 1) レファレンスサービスの重要性を理解する。
- 2) 参考質問の受付から回答・事後処理に至るプロセスを実践的に理解する。
- 3) 回答のための各種参考図書の特性と利用方法を理解する。
- 4) 情報探索能力の体得を図る。
- 5) レファレンスインタビューの方法を体得し、能力の向上を図る。

内容

1	レファレンスサービスとは
2	レファレンスライブラリアンの責務
3	レファレンスサービスのプロセス
4	レファレンスツールの種類と内容
5	レファレンスツールの活用の実際
6	外部情報機関、インターネットの活用
7	レファレンス課題による探索実習(1)
8	探索結果の発表(1)
9	レファレンス課題による探索実習(2)
10	探索結果の発表(2)
11	レファレンス事例の分析検討(1)
12	レファレンス事例の分析検討(2)
13	レファレンスインタビューの方法
14	レファレンスインタビューの実際 質問と回答
15	レファレンスサービスと他の図書館サービス

評価

演習レポートおよび発表40%、授業への参加意欲と態度20%、理解度確認のための論述レポート40%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業の際に必要なに応じて指示する。

科目名	レファレンスサービス演習		
担当教員名	紺野 順子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-司書課程		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格と概要

レファレンスサービスは、情報を求めている人々に直接行う個人的(人的)援助: personal assistanceと、できるだけ情報を利用しやすくすることを目的とする利用援助: instruction for library useに大別できる。レファレンスサービス演習は、講義科目「情報サービス概説」の学習をふまえ、その内容を具体的に・実践的に展開し、レファレンスサービスの実務的能力の修得をめざす。

学修目標

- 1) レファレンスサービスの重要性を理解する。
- 2) 参考質問の受付から回答・事後処理に至るプロセスを実践的に理解する。
- 3) 回答のための各種参考図書の特性と利用方法を理解する。
- 4) 情報探索能力の体得を図る。
- 5) レファレンスインタビューの方法を体得し、能力の向上を図る。

内容

1	レファレンスサービスとは
2	レファレンスライブラリアンの責務
3	レファレンスサービスのプロセス
4	レファレンスツールの種類と内容
5	レファレンスツールの活用の実際
6	外部情報機関、インターネットの活用
7	レファレンス課題による探索実習(1)
8	探索結果の発表(1)
9	レファレンス課題による探索実習(2)
10	探索結果の発表(2)
11	レファレンス事例の分析検討(1)
12	レファレンス事例の分析検討(2)
13	レファレンスインタビューの方法
14	レファレンスインタビューの実際 質問と回答
15	レファレンスサービスと他の図書館サービス

評価

演習レポートおよび発表40%、授業への参加意欲と態度20%、理解度確認のための論述レポート40%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業の際に必要なに応じて指示する。

科目名	レファレンスサービス演習		
担当教員名	紺野 順子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-司書課程		
学 年	2	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格と概要

レファレンスサービスは、情報を求めている人々に直接行う個人的(人的)援助: personal assistanceと、できるだけ情報を利用しやすくすることを目的とする利用援助: instruction for library useに大別できる。レファレンスサービス演習は、講義科目「情報サービス概説」の学習をふまえ、その内容を具体的に実践的に展開し、レファレンスサービスの実務的能力の修得をめざす。

学修目標

- 1) レファレンスサービスの重要性を理解する。
- 2) 参考質問の受付から回答・事後処理に至るプロセスを実践的に理解する。
- 3) 回答のための各種参考図書の特性と利用方法を理解する。
- 4) 情報探索能力の体得を図る。
- 5) レファレンスインタビューの方法を体得し、能力の向上を図る。

内容

1	レファレンスサービスとは
2	レファレンスライブラリアンの責務
3	レファレンスサービスのプロセス
4	レファレンスツールの種類と内容
5	レファレンスツールの活用の実際
6	外部情報機関、インターネットの活用
7	レファレンス課題による探索実習(1)
8	探索結果の発表(1)
9	レファレンス課題による探索実習(2)
10	探索結果の発表(2)
11	レファレンス事例の分析検討(1)
12	レファレンス事例の分析検討(2)
13	レファレンスインタビューの方法
14	レファレンスインタビューの実際 質問と回答
15	レファレンスサービスと他の図書館サービス

評価

演習レポートおよび発表40%、授業への参加意欲と態度20%、理解度確認のための論述レポート40%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業の際に必要なに応じて指示する。

科目名	情報検索演習		
担当教員名	加藤 暁子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-司書課程		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、図書館司書資格を得るために必要となる科目で、司書に必要な情報検索を実践する講座です。

講義では、課題に応じて、司書に役立つ情報を検索していきます。演習を通してより精度の高い情報を得る方法や必要な情報の見分け方を学んでいきます。

私たちの生活において、様々な問題を解決するための情報収集や、多くの情報の中から、より必要なものを見つける力が必要とされています。そこで、本演習科目ではインターネットで蔵書を検索するだけでなく、図書館の利用者が求めることを想定したさまざまな情報を検索し、その検索結果が適切なものかどうかを検証する方法を学び、複雑な問題を解決しなければならない諸場面で役立つ実践的技能の取得を目指します。

下記内容は、年度(学生のニーズ)により変更もある。

内容

1	情報検索とは
2	データベースの仕組みと利用の仕方
3	利用者が求める情報は何か、仲介者としての司書が果たす役割を理解
4	検索内容の明確化
5	検索手段の選択
6	主要な検索システムとデータベースの特徴を理解
7	データベース検索を行う上で必要な検索式の作成方法を理解
8	検索の実行と検証
9	情報を必要としている利用者が求めている回答明確に探る力を養う
10	検索式の作成演習と検索演習(1)雑誌
11	検索式の作成演習と検索演習(2)図書
12	検索式の作成演習と検索演習(3)海外雑誌
13	自然語と統制語の違い
14	仲介者として適切な情報の伝達とは
15	まとめ

評価

各回ごとのプリント課題 1回10点満点×15 合計90点以上を合格点とする

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

毎回、適時プリントを配付するか、WEB上で課題を指示致します。

科目名	情報検索演習		
担当教員名	角田 真二		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-司書課程		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 司書課程の「資料」関係の授業でデータベース構築する面から学ぶことが多い。ここでは、データベースを検索する面から学ぶ。

科目の概要 現代生活においては、日常出会うさまざまな問題を解決するためには情報の収集・選択活動が必要となる。各種情報が氾濫している時代に、経験や記憶といった不確かなものに頼るだけでは複雑な問題の解決に役立つ情報を得ることは難しい。

そこで、コンピュータネットワークを用いた情報検索の方法と、その検索が適切になされているかどうかを評価する方法を学び、問題解決の諸場面で役立つ実践的技能の修得を目指す。

学修目標 図書館司書として、実際の業務で遭遇するデータベース検索、情報検索の問題に対処できる力を養う。

内容

1	オリエンテーション
2	なぜ情報検索が必要とされているかを、現代の図書館をとりまく状況を通して理解する。
3	オンラインや電子媒体を通じて配信される目録や書誌が増大している事情を理解する。
4	データベースに関する基本的な事柄と、データベース検索に必要なブール演算などを学ぶ。
5	自分で求める情報の検索式が作れることをめざす。
6	自分が作る検索式が求める情報を的確に表していたのかどうかを確認する。
7	マルチメディアデータの検索を行うために、マルチメディアについて学ぶ。
8	インターネットを通じて情報検索できるサイトにアクセスする。
9	インターネット上の各種サーチエンジンにアクセスし、従来の図書館での検索と比較する。
10	複雑な情報検索に必要な検索用語の問題として、シソーラスについて学ぶ。
11	科学技術文献データベースのJ O I S や国内の代表的な商用データベースを検索する。
12	出版社系の書誌データベースを検索し、その活用法を学習する。
13	さまざまなジャンルの検索課題について情報検索を行う。
14	各種情報源をどのように使えば、問題を解決することができるのか、考察する。
15	まとめ

評価

提出してもらったレポート(15点)を、150点満点(15X10点満点)で計算し、90点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

プリントを配布

科目名	情報検索演習		
担当教員名	島谷 祐枝		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-司書課程		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

現代の生活においては、様々な問題解決のために情報の収集・選択活動は必須のものとなっている。そこで、本演習科目ではコンピュータネットワークを用いた情報検索の方法と、その検索結果が適切なものかどうかを検証する方法を学び、複雑な問題を解決しなければならない諸場面で役立つ実践的技能の取得を目指す。

内容

1：情報検索の手順理解

どのような段階を経て検索を進めていくかを確認する

2：検索内容の明確化

利用者と求める情報の仲介者としての司書の役割を理解する

3：検索手段の選択

各種データベースの特徴を理解する

4：主要な検索システム

主要なデータベースの紹介。各データベースにより扱う情報や、検索方法の違いに注目し、対応できるようになることを目指す

5：検索式の作成

データベース検索を行う上で必要な検索式の作成方法を理解する

6：検索の実行と検証

実際に検索を実行し、導き出された結果が適切なものかどうか検証する方法を学習する

7：シソーラスの利用

自然語と統制語の違いを学び、検索活動に利用するための方法を学習する

8-14：検索式の作成演習と検索演習

様々なパターンの検索式の作成を行うと同時に、各種検索課題について実際に情報検索を行う。自ら計画をたてて検索を行い、その検索結果に対して自分自身で評価を与える事ができるようになる事を目標とする

15：まとめ

評価

授業中に小テストを何度か行い、総計100点のうち60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

『CD ROMで学ぶ 情報検索の演習』田中 功 (著), 松山 巖 (著), 齋藤 泰則 (著)

日外アソシエーツ, 2008

2,415円

ISBN: 978-4816921186

これに適時プリントを配付

科目名	情報検索演習		
担当教員名	島谷 祐枝		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-司書課程		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

現代の生活においては、様々な問題解決のために情報の収集・選択活動は必須のものとなっている。そこで、本演習科目ではコンピュータネットワークを用いた情報検索の方法と、その検索結果が適切なものかどうかを検証する方法を学び、複雑な問題を解決しなければならない諸場面で役立つ実践的技能の取得を目指す。

内容

1：情報検索の手順理解

どのような段階を経て検索を進めていくかを確認する

2：検索内容の明確化

利用者と求める情報の仲介者としての司書の役割を理解する

3：検索手段の選択

各種データベースの特徴を理解する

4：主要な検索システム

主要なデータベースの紹介。各データベースにより扱う情報や、検索方法の違いに注目し、対応できるようになることを目指す

5：検索式の作成

データベース検索を行う上で必要な検索式の作成方法を理解する

6：検索の実行と検証

実際に検索を実行し、導き出された結果が適切なものかどうか検証する方法を学習する

7：シソーラスの利用

自然語と統制語の違いを学び、検索活動に利用するための方法を学習する

8-14：検索式の作成演習と検索演習

様々なパターンの検索式の作成を行うと同時に、各種検索課題について実際に情報検索を行う。自ら計画をたてて検索を行い、その検索結果に対して自分自身で評価を与える事ができるようになる事を目標とする

15：まとめ

評価

授業中に小テストを何度か行い、総計100点のうち60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

『CD ROMで学ぶ 情報検索の演習』田中 功 (著), 松山 巖 (著), 齋藤 泰則 (著)

日外アソシエーツ, 2008

2,415円

ISBN: 978-4816921186

これに適時プリントを配付

科目名	図書館資料論		
担当教員名	山口 洋		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-司書課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

図書館資料とその運用(利用提供)について学習します。

今日の図書館では、利用者の情報要求に応じてこそ図書館であるという図書館思想のもと、様々な利用者を対象としたサービスが展開されています。本授業では図書館の情報提供サービスを支える図書館資料について、その種類、運用方法、さらに収集(選書から出版流通の現状まで)について概観しながら、図書館資料とは何か?司書には何が求められるのか?を考えます。

図書館資料を中心に司書として必要な知識を習得するとともに、自らが司書として、また利用者として図書館について積極的に関わるにはどうしたらよいかを考えられることを目標とします。

内容

1	ガイダンス
2	図書館資料の意義:図書館を構成する要素
3	図書館資料と知的自由(1):知的自由とは何か
4	図書館資料と知的自由(2):日本における知的自由
5	図書館資料の種類(1):印刷資料
6	図書館資料の種類(2):非印刷資料
7	図書館資料の種類(3):政府刊行物、地域資料
8	出版流通システム:委託販売制度、再販制度
9	著作権と図書館:著作権とは何か?
10	収集と選択(1):蔵書、収集方針
11	収集と選択(2):選書論
12	蔵書管理:蔵書形成から共同保存まで
13	資料の受入:業務の実際から予算管理まで
14	書庫管理:閉架書庫から開架書庫へ
15	まとめ

評価

小レポート30%、筆記試験70% 合計で60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書:馬場俊明編著『図書館資料論』(JLA図書館情報学テキストシリーズ ;7)日本図書館協会

参考書:今まど子編著『図書館学基礎資料』第10版 樹村房 2011刊(定価1000円。出来るだけ購入することをお勧めします。)

参考書(司書を目指す方は必読書です)

前川恒雄、石井敦共著『新版 図書館の発見』（NHKブックス）日本放送協会 2006刊 定価920円

参考書（授業で触れる予定の参考書）

『市民の図書館』日本図書館協会

『公立図書館の任務と目標 解説』改訂版 日本図書館協会

『「図書館の自由に関する宣言1979年改訂」解説』第2版 日本図書館協会

科目名	専門資料論		
担当教員名	石川 敬史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-司書課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

図書館にはさまざまな館種があり、さまざまな主題領域のレファレンスサービスに持続的に応えている。すなわち、図書館司書は、常に幅広い主題分野にアンテナを張り、図書館サービスを創造する必要がある。本科目では、「図書館資料論」「レファレンスサービス演習」を補い、図書館司書として必要な人文科学、社会科学、自然科学・技術等の幅広い分野における知の構造や資料の特性を理解する。

科目の概要

さまざまな学問領域、図書館、図書館資料を発見し、専門資料を活用する利用者の目線に立って研究活動の特徴や学術情報全体の流れを概観し、人文科学、社会科学、自然科学・技術等の研究活動で必要となる専門資料の特性や違いを受講生とともに考える。

学修目標

教科書とともに、授業時の説明を理解するように心がけること。さらに、受講者同士の議論やミニワークショップを通して、他の受講生の意見や考えを踏まえ、自らの意見や考えをまとめること。

- ・学術情報活動を支える図書館を想定し、学術情報の全体の流れを理解する。
- ・公共図書館でのレファレンスサービス、大学・専門図書館における研究支援のために不可欠な各分野で使用される代表的な資料、情報源を知る。
- ・興味のある主題領域以外の各分野へのアプローチ方法を知る。

内容

1	オリエンテーション：図書館司書課程における本授業の位置づけ
2	さまざまな学問分野と専門資料の種類
3	さまざまな研究の方法（アプローチ）と活用・生産される専門資料の特徴
4	一次情報と二次情報の違い：データベース、電子ジャーナル等の電子媒体資料
5	学術情報の特徴
6	自然科学・技術分野における情報利用
7	人文・社会科学分野における情報利用：企業等の組織内での情報流通も含む
8	まとめ
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

評価

授業中の課題作成（20％），授業への参画・発表の姿勢（30％），試験（50％）とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

- ・三浦逸雄，野末俊比彦『専門資料論』新訂版，日本図書館協会，2010（JLA図書館情報学テキストシリーズ ， 8 ）

【参考図書】

- ・山崎久道『専門図書館経営論』日外アソシエーツ，1999
- ・海野敏，影浦峯，戸田慎一『学術情報と図書館』雄山閣，1999（講座図書館の理論と実際， 9 ）
- ・学術情報探索マニュアル編集委員会『理・工・医・薬系学生のための学術情報探索マニュアル』丸善，2006
- ・図書館経営支援協議会『事例で読むビジネス情報の探し方ガイド』日本図書館協会，2005

科目名	資料組織論		
担当教員名	三澤 勝己		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-司書課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

図書館業務の柱の一つである分類と目録について、その基本的部分を説明する。他の司書課程科目とも密接に関連している科目だが、特に資料組織演習の科目とは関連性が強い。授業については、その内容を授業時に理解することに努めると共に、復習を励行することを望む。

内容

1	主要分類表について
2	日本十進分類法の沿革
3	日本十進分類法の特徴
4	日本十進分類法の分類規程(1)
5	日本十進分類法の分類規程(2)
6	日本十進分類法の各類概説
7	資料の別置と図書記号
8	目録について
9	日本目録規則の特徴
10	目録記入の作成(図書の場合)
11	目録記入の作成(継続資料の場合)
12	標目について
13	基本件名標目表の特徴
14	集中・共同目録作業
15	まとめ

評価

レポート(10%)と筆記試験(80%)と通常の授業態度(10%)により評価を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】志保田務他『分類・目録法入門 メディアの構成 』(新改訂第5版、第一法規)

【参考図書】教室で紹介する。

科目名	資料組織演習		
担当教員名	富田 美樹子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-司書課程		
学 年	2	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

求める資料・情報への的確なアクセス・検索には、主題の把握と資料の書誌的識別が必要である。また今日の情報化社会において、資料・情報の適切な組織化は、情報提供・発信の基盤である。

本科目では、資料組織化の基本である目録法と分類法を、数多くの演習を通して学習することで、ツールの構成と利用法を理解し、図書館資料の組織化業務の基礎を習得する。あわせて、集中目録作業や書誌ユーティリティの進展に対する理解を深める。

学修目標：演習課題をきちんと提出し、よく復習すること。

内容

<前期：目録法>

導入、目録法総則、目録規則の標準化、ISBD区切り記号法

記述総則、タイトルと責任表示

版、出版等

形態、シリーズ

注記、標準番号

継続資料の記述

洋資料の記述

標目、片かな表記法

典拠コントロール、コンピュータ目録、書誌ユーティリティの利用

まとめ

<後期：分類法>

主題アクセス、『日本十進分類法（NDC）』の構成

分類記号の付与、補助表、形式区分

地理区分、海洋区分

言語区分、言語共通区分、文学共通区分

分類規程

歴史・伝記・地理分野

言語分野、文学分野

社会科学分野

件名作業

図書記号、別置記号

総合演習問題

まとめ

評価

授業態度（演習課題等）3割、ペーパーテスト7割で評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は、「再試験」を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】吉田憲一編『資料組織演習』（JLA図書館情報学テキストシリーズ ; 10）日本図書館協会

【参考資料】必要に応じてプリントを配布する。

科目名	資料組織演習		
担当教員名	富田 美樹子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-司書課程		
学 年	2	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

求める資料・情報への的確なアクセス・検索には、主題の把握と資料の書誌的識別が必要である。また今日の情報化社会において、資料・情報の適切な組織化は、情報提供・発信の基盤である。

本科目では、資料組織化の基本である目録法と分類法を、数多くの演習を通して学習することで、ツールの構成と利用法を理解し、図書館資料の組織化業務の基礎を習得する。あわせて、集中目録作業や書誌ユーティリティの進展に対する理解を深める。

学修目標：演習課題をきちんと提出し、よく復習すること。

内容

<前期：目録法>

導入、目録法総則、目録規則の標準化、ISBD区切り記号法

記述総則、タイトルと責任表示

版、出版等

形態、シリーズ

注記、標準番号

継続資料の記述

洋資料の記述

標目、片かな表記法

典拠コントロール、コンピュータ目録、書誌ユーティリティの利用

まとめ

<後期：分類法>

主題アクセス、『日本十進分類法（NDC）』の構成

分類記号の付与、補助表、形式区分

地理区分、海洋区分

言語区分、言語共通区分、文学共通区分

分類規程

歴史・伝記・地理分野

言語分野、文学分野

社会科学分野

件名作業

図書記号、別置記号

総合演習問題

まとめ

評価

授業態度（演習課題等）3割、ペーパーテスト7割で評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は、「再試験」を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】吉田憲一編『資料組織演習』（JLA図書館情報学テキストシリーズ ; 10）日本図書館協会

【参考資料】必要に応じてプリントを配布する。

科目名	児童サービス論		
担当教員名	皆川 美恵子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-司書課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

図書館司書資格を取得したい学生に向けての必修科目である。公共図書館に不可欠なサービスとして位置づいている児童図書館サービスについて解説する。

児童図書館サービスとは、児童奉仕とも呼ばれ、子どもを対象として、児童図書館の目的を達成する為に行われる仕事全般を指している。子どもの利用者に向かって直接行うサービスのみでなく、管理運営、施設の環境整備、資料の選択収集、さまざまなサービスの企画・遂行、館外との協力・連携、さらにこれらサービスの広報活動までが含まれる。以上のような仕事を理解することをねらいとする。

内容

講義による1単位科目である。そこで講義回数8回によって、授業を行う。

授業計画

- 第1回 子どもにとって読書とは何か
子どもの読書活動の歴史
- 第2回 児童図書館の意義と歴史
- 第3回 児童資料の種類と選書規準
- 第4回 絵本の選書について
- 第5回 (狭義の)児童文学の選書について
- 第6回 ヤング・アダルト文学の選書について
- 第7回 児童図書館サービスの意義と児童図書館員の専門性
- 第8回 ブック・トーク、ストーリー・テリング、読み語りの実際

評価

授業への取り組み方20%、レポート成績80%で評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】『改訂 児童サービス論』 中多泰子編 樹村房

科目名	図書及び図書館史		
担当教員名	富田 美樹子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-司書課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

司書課程を学び始める学生に、人類の叡智はどのように表現され蓄積されてきたかを学ぶことで、人類の素晴らしさを感じ取ってもらいたい。その叡智の集積の場である図書館は、メディアの進歩と社会との関わりのなかで発展し、形態を変えてきた。その歴史を学ぶことで、図書館が現代社会において果たすべき機能と役割についても考えるきっかけとする。

集中講義なので、各時間ごとに学んだ内容をまとめ提出することで、学習内容の確認を行う。

内容

導入、文字及び記録媒体・印刷技術の歴史

古代の図書館：図書館の起源、アレクサンドリア図書館、古代ローマの図書館

中世の図書館：修道院図書館、大学図書館

近世の図書館（15～16世紀）：グーテンベルグの活版印刷、ルネサンス時代の図書館

近世の図書館（17～18世紀）：啓蒙の時代、図書館思想、大衆読書の時代

近代の図書館（19世紀）：貸本屋・会員制図書館、公共図書館、国立図書館、各館種・機能の確立

20世紀の図書館：文献生産量の増大化、国内・国際図書館協力、情報化社会の到来、電子図書館

～ 日本の図書館の歴史：古代の図書館～現代の図書館

まとめ （時間の都合がつけば印刷の歴史を見学）

評価

授業態度・提出物を3割、試験を7割で評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

寺田光孝編『図書及び図書館史』（新・図書館学シリーズ 12）樹村房

（集中講義なので、授業開始までに通読しておくこと）

科目名	資料特論		
担当教員名	山口 洋		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-司書課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

図書館資料とその運用(利用提供)について学習します。

本授業では、公共図書館や多くの図書館において利用が多かったり、重要視される資料である、逐次刊行物、政府刊行物、地域資料を中心に、図書館資料論よりより詳しく考察します。また障害者サービスに利用される資料や資料保存についても触れます。

図書館資料を中心に司書として必要な知識を習得するとともに、自らが司書として、また利用者として図書館について積極的に関わるにはどうしたらよいかを考えられることを目標とします。

内容

1	ガイダンス
2	図書館資料とは何か：資料類型、図書資料
3	逐次刊行物(1)：雑誌、新聞
4	逐次刊行物(2)：収集する意義、運用方法
5	政府刊行物(1)：政府刊行物とは何か？
6	政府刊行物(2)：政府刊行物の種類
7	政府刊行物(3)：政府刊行物の運用
8	地域資料(1)：地域資料とは何か？
9	地域資料(2)：地域資料の種類
10	地域資料(3)：地域資料の運用
11	視聴覚資料：種類と運用
12	障害者サービス：どのような資料が必要か？
13	資料保存：保存の目的、酸性紙問題
14	電子書籍と図書館：可能性と問題点
15	まとめ

評価

小レポート30%、筆記試験70% 合計で60点以上を合格とします。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書は使いません。プリント配布。図書館資料論で利用した教科書を参考書に利用します。

参考書：馬場俊明編著『図書館資料論』(JLA図書館情報学テキストシリーズ ;7)日本図書館協会

参考書：今まど子編著『図書館学基礎資料』第10版 樹村房 2011刊(定価1000円。出来るだけ購入することをお勧めします。)

参考書(司書を目指す方は必読書です)

前川恒雄、石井敦共著『新版 図書館の発見』（NHKブックス）日本放送協会 2006刊 定価920円

参考書（授業で触れる予定の参考書）

『市民の図書館』日本図書館協会

『公立図書館の任務と目標 解説』改訂版 日本図書館協会

『「図書館の自由に関する宣言1979年改訂」解説』第2版 日本図書館協会

科目名	コミュニケーション論		
担当教員名	江藤 茂博		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-司書課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

本講座は、図書館司書課程のためのコミュニケーション論という科目の性格を持ちます。科目の概要としては、文字・本を中心としたメディアの歴史、メディアの盛衰と社会・文化との関係、テキストと現代文化、以上の三つを主題にしたコミュニケーション論が、各回の具体的内容それぞれに配置組み込まれています。基本的な問題意識は、情報伝達、コミュニケーション行為による社会文化の動態研究ということになりますが、ここでのメディアは書物中心に考えることにします。また、学問の領域としては、社会学と文学に重なる内容になることでしょう。

第一回～第三回 メディア史 第四・五回 20世紀のメディア

第六回～第十回 さまざまなメディアと現代社会 / 学校・コンビニ・モール・塾・図書館

第十一回～第十五回 メディアと解読 / 出版文化論・サブカルチャー研究・文学理論

学修目標としては、図書および図書館機能とそれらと社会文化との関係を理解してもらいたい。

内容

第一回 メディアの歴史と印刷技術

第二回 図書館メディアの歴史

第三回 表現メディアの歴史

第四回 20世紀前半のメディア史

第五回 20世紀後半のメディア史

第六回 学校メディア

第七回 コンビニメディア

第八回 モールメディア

第九回 塾メディア

第十回 図書館・文学館メディア

第十一回 表現メディアと解読理論 - 文学解読を事例として

第十二回 表現メディアと解読理論 - 文学解読を事例として

第十三回 表現メディアと解読理論 - 文学解読を事例として

第十四回 サブカルチャー研究

第十五回 まとめ

評価

授業に出席し、小テストで知識・理解を確認したいと思います。基本的には、平常点40パーセント + 小テスト二回各30パーセント、で評価します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書はありませんが、プリントは配布します。また、担当者による『20世紀メディア年表』双文社出版2009年、『オタク文化と蔓延するニセモノビジネス』戎光祥出版2008年などを、機会があれば手にとり参考にしてください。

科目名	情報機器論		
担当教員名	角田 真二		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-司書課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 司書課程の「資料」「サービス」関係の授業で情報化関連の事柄が多く出てきます。したがって、情報とは何か、情報はいかなる手段(メディア)によって表出され、伝達されるかを理解することが大切です。

科目の概要 情報のメディアは、古代から今日まで、その形態の進歩はあっても文字、画像・映像、音声・音響がその基本であることは変わっていません。これらのメディアによって作成・表出された情報が活用されるにはほとんどの場合、次のプロセスを経ることになります。情報の作成、保存、蓄積、発信、伝達、受信、情報の収集、整理、検索などです。したがって、情報を最大限に活用するためにはこれらのプロセスに用いられる機器の原理を理解しておくことが大切で、ねらいとなります。

学修目標 特に、近年の電子技術の進歩により、情報の多くが電子化情報すなわちデジタル情報として処理されるようになってきました。コンピュータを初めとする電子・磁気機器、光学機器については原理のみならず活用能力を修得します。情報処理担当者、図書管理担当者、情報・図書サービス担当者にとって必須要件となってきたからです。

内容

1	オリエンテーション
2	情報作成手段、機器の発達をまず概観します。
3	情報保存・蓄積媒体と機器の発達を学びます。
4	マルチメディア情報処理装置としてのコンピュータについて、その仕組みを中心に学びます。
5	情報のデジタル化としての2進数を学びます。
6	コンピュータ通信ネットワーク(LANとインターネット)を学びます。
7	電子図書館とデータベースシステム、について学びます。
8	インターネットの利用、について学びます。
9	デジタル映像機器としてのビデオカメラ、デジタルビデオカメラの機構について学びます。
10	磁気記録媒体について学びます。
11	光反射記録媒体について学びます。
12	光-磁気構造、光-分子構造、ICメモリー、などについて学びます。
13	印刷機器((レーザープリンター、インクジェットプリンター)について学びます。
14	情報の発信、伝達、受信、通信媒体、インターネットについて学びます。
15	まとめ

評価

提出してもらうレポート(15点)を、150点満点(15X10点満点)で計算し、90点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

プリントを配布する

科目名	図書館特論 (メディアとジェンダー)		
担当教員名	松本 侑壬子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-司書課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

私たちを取り巻く情報の波 活字による情報の中心である新聞・雑誌、速くて見やすいテレビニュース、楽しく覚えやすいCMや広告、そして無意識のうちに生活必需品となってきたインターネットや携帯電話など。こうしたさまざまな情報媒体を「女性」という切り口で考えてみましょう。

メディアを通して見えてくる女性の姿は、生きた女性の現実を正しく伝えているでしょうか。子供や弱者の声は十分に反映されているでしょうか。情報の中身を理解し判断するには、情報の流れや仕組みをきちんと自分のものにしなければなりません。図書館などで資料を探し、情報を整理、分析、提供するときにもジェンダーの視点は重要です。

マスメディアで働く女性はまだ極めて少数派ですが、それだけに今後女性が情報発信の分野に進出・活躍する可能性はより大きいといえます。女性が男性の活躍にとって代わるというのではなく、女性と男性の複眼で社会を見つめ、情報を伝えることで、社会を見る視野がより広がり現実社会への理解がより深まります。これは情報の発信側のみならず、受け手にとっても重要なことです。

30年のキャリアを持つ元ジャーナリストとしての経験から、いま若い皆さんに伝えたいことは少なくありません。メディアを通してジェンダーの問題を一緒に考えていきましょう。

内容

- 1.はじめに マスメディアの仕組みとメディアウオッチング。
- 2.メディアの中の女性像ー“見られる女・見る男“の長い歴史 名画から映画、漫画、CM...まで。
- 3.女性雑誌 おじさんだってかわいい 女性雑誌に見る“女の子文化”の社会化。
戦争と女性雑誌 “女らしさ”の再生産
4. 広告の中の女たち 広告はマスメディアを支え、女性は広告を支える。
5. テレビの裏表 制作現場からの報告。
6. 新聞を読んでいますか? 女性と新聞の距離。
テレビと新聞 メディアとしての比較。情報量を比べてみよう。
ニュースは作られる 女性の視点で読むということ
差別用語の変遷。
7. メディアで働く女性たち
データでみる日本の「メディアと女性」
メディアの現場の女性に聞く(ゲスト) 仕事の喜びは何ですか?
8. メディア・リテラシーを身に着けよう。
9. あなたのジェンダー意識度は?
10. まとめ 情報の洪水に溺れないために

評価

授業に対する意欲・関心・態度40点およびペーパーテスト60点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキストは特になし。必要に応じてその都度資料配布する。

【推薦書】後藤将之著『マス・メディア論』（有斐閣コンパクト）361.54/G

佐野山寛太著『現代広告の読み方』（文藝春秋）674/S

村松泰子他編『メディアがつくるジェンダー』（新曜社）367.2/M

若桑みどり著『戦争が作る女性像』（筑摩書房）

ジョルジュ・デュピイ編『女のイメージ・画像が語る女の歴史』（藤原書店）

日本写真家協会編『おんな・立ち止まらない女性たち1945 - 2010』（朝日新聞出版）

科目名	図書館特論 (女性情報論)		
担当教員名	青木 玲子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-司書課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

司書課程選択科目群の図書館特論の 科目

科目の概要

氾濫する情報の中から、信頼できる情報を得るために情報リテラシーを学ぶ。さらに世の中の情報がいかに女性を固定的な視点で描き、発信しているか、ジェンダー視点で分析して要因を探る。統計資料などの読み解き方を学び現代社会の女性・男性の現状を明らかにする。女性の生き方の選択においてどのように情報を活用していくか、共に考える。

学修目標

信頼できる情報の検索・収集の方法についてについて学び、身近な図書館を活用する

新聞・雑誌・インターネットなど多様なツールで日常的に社会の現状を把握する

女性のライフステージ(就職・研究・結婚・子育て・家族・生涯学習)における支援情報を知る

毎時間、新聞記事・雑誌記事のワークシートをまとめる

内容

1	1.女性情報とは何か 女性情報ツールの紹介 科目のオリエンテーション
2	2.女性情報検索の基礎(図書館/男女共同参画センタの利用・インターネット/データベース検索)
3	2- 女性学関連 図書・参考図書の検索・利用
4	2- 新聞記事・女性雑誌・ミニコミ誌の検索と利用
5	3 男女共同参画社会とは
6	3- ジェンダー分析の実習 (女性を対象/男女共同参画関連新聞記事・雑誌記事の分析)
7	3- ジェンダー分析の実習 (インターネットサイト・映画・写真に見る女性)
8	4 統計で見る日本の女性の現状 (各種統計データベースの紹介・ジェンダー統計とは)
9	5 女性のライフステージにおける女性情報の活用
10	5- 就職活動・研究活動をエンパワーする情報
11	5- 結婚・子育て・介護・再学習を支援する情報
12	6 女性のキャリア形成
13	6- 女性の伝記・自伝を読む 歴史を切り開いた女性の資料を調べる
14	6- 女性の伝記・自伝を読む 新しい分野に挑戦する女性の資料を調べる
15	レポートの発表 まとめ

評価

3. 評価

レポート(50%) ワークシートレポート(40%) 授業への貢献(10%) 60点以上を合格とする

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】または【テキスト】使用しない，プリント配布

【推薦書】『情報との出会い』縫田曄子 ドメス出版 1999

【参考図書】

『男女共同参画データブック 日本の女性と男性』独立行政法人国立女性教育会館 ぎょうせい 2009

『メディアリテラシーとジェンダー』諸橋泰樹 現代書館 2009

『インターネットで文献検索 2010年度版』伊藤民雄 日本図書館協会 2010

『「私」を生きる女たち 伝記で読むその生涯』楠瀬佳子 三木草子 世界思想社 2004